



解決していない疑問

解決した疑問

みんなで話し合ったら
おもしろそうな疑問



【物語全体】

- ①「大造じいさんと残雪」という題名でもいいのに、どうして「大造じいさんとガン」という題名にしたのか？
- ②宮沢賢治さんの物語はオノマトペを使っていて面白かったからこの物語も使ったらいいのに、どうしてこの物語は使わなかったのか？
- ③注文の多い料理店は擬音語が多く使われていたけれど、どうしてこの物語は例えが多く使われているのか？
- ④改行が多くあるが、どうして多く使っているのか？
- ⑤前書きは一人称視点なのに、どうしてこの物語は三人称視点で書かれているのか？
- ⑥様子を書いた一文を一つの段落にするのはその情景を思い浮かべせると分かるが、どうして「残雪です。」や「大造じいさんはかけつけました。」を一つの段落にしたのか？
- ⑦一回の冬だけでいいのに、どうして何年ものことを一つの物語に入れているのだろうか？
- ⑧作者は何が伝えなかったのか？

【前書き】

前書き全体について

- ①いきなり「大造じいさんの物語はこんな出来事です…」という感じから始めてもいいのに、どうして椋鳩十は最初に「これは大造じいさんから聞いた話です」というところから前書きを始めたのか？
- ②最初から「今年も、残雪は、ガンの群れを率いてぬま地にやってきました。」から始めればいいのに、どうして前置きを入れたのか？
- ③物語なのに、どうして「わたし」という読み手が登場するのか？
- ④他の物語であれば「その話を土台として」という言葉はないけれど、どうしてリアル感を出したのか？
- ⑤大造じいさんにとってガンは特別な存在だとあるけれど、どれくらいの思い出が彼の中につまっているのか？
- ⑥前書きがあるけれど、この物語は本当にあった話なのか、ちがうのか？

「わたし」について

- ①「知り合いのかりゅうどにさそわれて」とあるけれど、作者はどうしてたくさんかりゅうどの知り合いがいるのか？
- ②「知り合いのかりゅうどにさそわれて」とあるけれど、じゃあ椋鳩十もりょうしなののか？
- ③「イノシシがりに出かけました」とあるけれど、なぜイノシシがりのか？他のりょうしでもないのではないのか？
- ④「知り合いのかりゅうどにさそわれて」とあるけれど、大造じいさんと知り合いのかりゅうどと私の関係はどんな関係なのか？
- ⑤「わたしのイノシシがりの」の話だったけれど、どうして物語はガンがりの物語になったのか？
- ⑥栗野岳の大造じいさんの家に集まってかりの話をしていられるけれど、わたしはガンのかりにはいけないのか？
- ⑦「わたしはこの折の話を土台にしてこの物語を書いてみました。」とあるが、実話要素があるのか？
- ⑧他にもたくさん物語を聞いたはずなのに、どうしてこの作者はガン狩りの話を書くことを決めたのか？

「大造じいさん」について

- ①「みな集まりました」とあるが、イノシシがりに出かける時、どうして大造じいさんの家に集まるのだろうか？
 - ②七十二歳と書かれているけれど、どのくらい「こしひとつ曲がつて」いないぐらい元気なのか？
 - ③七十二歳なのに、どうして大造じいさんは腰一つ曲がない元気な老かりゆうどなのか？
 - ④普通七十歳ぐらいになると腰が曲がるのに、どうして大造じいさんは腰一つ曲がつていないのか？
 - ⑤かりゆうどはえものをとる仕事なだけであまり接待やプレゼンはしないと思うけれど、どうしてかりゆうどのだれもが話がうまい設定なの？
 - ⑥「かりゆうどの誰もがそうであるように、なかなか話し上手の人でした。」と書いてあるけれど、どうしてかりゆうどは話上手なのか？
 - ⑦「血管のふくれた手」と書かれているけれど、かりゆうどをやっていると手がそんな事になっているのか？
 - ⑧かりゆうどは鉄砲でうつだけだから、よほどの力仕事というほどではないと思うけれど、どれほどふくれたがんじょうな手だったのか？
 - ⑨「まだ栗野岳のふもとのぬま地にガンがさかんにきたころ」とあるけれど、ガンが来ていたのは昔だけなのか？
- 「大造じいさんの暮らし」について
- ①「いろりのたき火にかざしながら」とあるけれど、季節は冬なのか？
 - ②「ろばた」とは何か？
 - ③「さあ、大きな丸太がパチパチと燃え上がり、しょうじには自在かぎとなべのかげがうつり、清々しい木のおいのするけむりの立ちこめている山家のろばたを想像しながらこのお話をお読みください。」とあるけれど、火がついている丸太には、けむたなくてまだ清々しい匂いが残っているのか？
 - ④「すがすがしいにおいがする」とあるけれど、大造じいさんが経験したガン狩りの話の背景が木がたくさんあるところなのか、それとも大造じいさんの家で燃えている丸太が切りたてでまだ自然の匂いが残っているのか、どちらなのか？

【第一章】

ガンについて

- ①「ガンの群れを率いて」とあるけれど、今でもガンはやってくるのか？
- ②「群れを率いて」とあるけれど、どうして残雪は群れを率いてきてやってくるのか？
- ③ガンたちは、何回も罠があることを知っているけれどめちやくちや遠いところには行かないのか？
- ④池でもいいのに、どうしてガンは毎年同じ沼地にやってくるのか？
- ⑤他の鳥でも良かったけれど、どうして作者は物語に出てくる鳥をガンにしたのか？
- ⑥残雪を先頭にしていたガンの群れは、どのくらいの数だったのか？

「残雪」について

- ①ガンはいっぱいいるけれどどうして残雪だけ名前をつけたのだろうか？
- ②残雪が何回も出てきているけれど、たくさんガンの群れの中からどうやって残雪だと区別しているのか？
- ③残雪は一羽のガンにつけられた名前だけれど、どうして名前を残雪としたのか？
- ④「左右のつばさに一か所ずつ、真っ白な交じり毛を持っていた」と書いてあるが、どのくらいのガンがそのような模様なのか？それとも残雪だけのとくちょうなのか？
- ⑤「雪」とか「白」でいいのに、ちよつと白色が混じっているだけでどうして残雪という名前にしたのか？
- ⑥「つばさが白い」と書かれているけれど、どのくらい残雪は「真っ白」だったのだろうか？
- ⑦残雪はともかしこいとおあるけれど、どのくらい残雪はかしこかったのか？
- ⑧ガンはみんな同じぐらいの能力だと思うけれど、どうして残雪は特別に頭領のような行動をとったのか？
- ⑨残雪は頭領だそうだがどうやって頭領に決まったのか？
- ⑩「仲間を指導した」とあるが、そんなことできるのか？
- ⑪残雪は一羽だけなのに、どうして残雪が来ただけで一羽のガンもつかまえられることができなかったのか？
- ⑫「人間を寄せつけませんでした」とあるけれど、どうやって人間を寄せつけなかったんだろうか？

「大造じいさん」について

- ①「今年もまた、ぼつぼつ、例の沼地にガンのくる季節となりました。」というのが何回かあるけれど、それまでの大造じいさんは何をしていたのか？
- ②「一羽のガンも手に入れることができなかったのていまいましく思っていました。」とあるけれど、えさをしかけておくのではなく、じゅうで打ってしまえば何羽も効率よく手に入れられたのではないか？
- ③「今年も」とあるけれど、どのくらいおじいさんはこのガンと戦っていたのだろうか？
- ④えものをつかまえるときはたくさんの人でつかまえた方が確率が上がると思うのに、どうして大造じいさんは一人でつかまえるようとしているのか？
- ⑤昔の話だけれど、大造じいさんは何歳ぐらいなのか？
- ⑥七十二歳の三十五年前は三十七歳くらいだけれど、どうして「じいさん」と書かれているのか？
- ⑦「残雪が来てから一羽のガンも手に入れられなくなった」とあるけれど、大造じいさんは残雪が来る前にどのくらいのガンをつかまえていたのか？
- ⑧「今年も」とあるけれど、どうして何年もかかりながらもこのガンをとる必要があったんだろうか？
- ⑨ガンじゃないとダメなわけではないのに、どうして大造じいさんは、ガンをねらっているのか？
- ⑩大造じいさんは何年もガンをとることができない手強い相手だったのに、どうして何年も続けたのか？
- ⑪かりゅうどだからガン以外の獲物もねらっていたのに、どうして大造じいさんは残雪やガンを狩りすることにこだわったのだろうか？
- ⑫色々用意できるお金があるけれど、どうして大造じいさんはあんなに残雪に執着したのか？
- ⑬書かれてはいないけれど、もしかして大造じいさんも注文の多い料理店の「しんしたち」のように動物を殺すことを遊びと思っていたのか？
- ⑭ガンをつかまえることができなかったのに、どうやってかりゅうどの大造じいさんは生計を立てていたのか？
- ⑮沼地にいる沼地でガンがとれないとわかっていのに、どうして大造じいさんはかり場を変えないのか？
- ⑯ガンの群れは（この物語の中では）悪いことをしていないのに、どうして大造じいさんは毎年準備をしてまでこのガンをしとめたいのか？
- ⑰「残雪がやってきたと知ると、大造じいさんは、今年こ

そはと、かねて考えておいた特別に方法に取り掛かりました。」とあるけれど、どのくらいの長い時間、この方法を考えていたのか？

⑱ガンをとらえるけれども一般的にじゅうを使うけれど、どうして大造じいさんはうなぎつりばりを使ってガンをとるという作戦を思いついたのか？

「ウナギつりばり作戦」について

- ①「一晩中かかって」とあるが、どのくらい釣り針をしかけたのか？
 - ②たたみ系とあるけれどもどのくらいの太さなのか？
 - ③なぜつかまえるための作戦の一番目を、タニシをつけたうなぎつりばり作戦にしたのか？
 - ④ガンを調べると、落穂や、草の種子、葉などを食べると書いてあるけれど、本当にタニシは食べるのか？
 - ⑤ガンは普通タニシを食べないのに、どうしてこの物語の大造じいさんはタニシをつけたうなぎつりばりをつかったのか？
 - ⑥ウナギつりばりのガンをつかまえるしかけは、どうなるにつかまえることができるのか？
 - ⑦残雪が来るようになったらガンが取れなくなったけれど、どうして大造じいさんはうまくいく気がしたのか？
 - ⑧「むねをわくわくさせている」とあるが、大造じいさんはどのくらい胸をわくわくさせたのか？
 - ⑨山の中の夜は暗いけれど、どうしてガンは暗がりの中で正確にえさが見えたのか？
 - ⑩他の時間でもよいと思うけれど、どうして大造じいさんは昼近くに沼にいったのだろうか？
 - ⑪一羽だけで残雪もつかまえられなかったけれど、どうして大造じいさんは「すばらしい」と思うのか？
 - ⑫「思わず子どものように声を上げて喜びました。」とあるけれど、どれぐらいの年齢の子どものようなのか？
 - ⑬「思わず子どものように」とあるけれど、どれくらい嬉しかったんだろうか？
 - ⑭「生きているガンがうまく手に入ったので」とあるが、死んだガンではダメなのか？
- 二回目の「ウナギつりばり作戦」について
- ①残雪に何回も逃げられているから鳥はすごいものだと思っっているはずなのに、どうして大造じいさんはたかが鳥だとおもってしまったのだろうか？
 - ②つりばりの計略の翌日ではなくて何日かおいておいたら、もっとガンがかかっていたかもしれないのに、どうし

て大造じいさんは昼過ぎにとりにいったのか？

③「びいん」と書かれているけれど、つりばりがびいんとはっているとはどういうことだろうか？

④ガンはつかまっていけないけれど、くちばしでどうやって釣り針の糸をびいんとできるのか？

⑤「ガンは、昨日の失敗にこりて、えをすぐには飲まないで」と書いてあるけれど、どのくらいガンたちは時間をかけてやっと飲みこまなかったのか？

⑥残雪は賢いと分かっていたのに、どうして大造じいさんは、ガンに対してたいした知恵を持っているものだなということを今さらのように感じたのか？

⑦仲間が盗まれてしまったのに、どうして残雪は探さなかったのか？

⑧一匹の仲間のガンが大造じいさんの手によって罠にかかったのを分かっていたのに、どうして残雪はまた沼地に来て仲間を危険にさらすような真似をしたのか？

⑨仲間がわなに引っかかったのに、どうして残雪はまた同じ場所にきたのか？

【第二章】

「残雪」について

①「残雪は大群を率いてやってきました」とあるけれど、どのくらいガンがいたのか？

②「沼地」とあるが、どうしてガンは沼地が好きなのか？

「タニシばらまき作戦」について

①「夏のうちから心がけて」とあるけれど、どのくらい前から準備したのだろうか？

②五俵ばかりのタニシ（ガンのえ）を集めていたとあるけれど、大造じいさんはドジョウなどもあげているけれど、どうしてここではドジョウにしかかったのか？

③「タニシを五俵ばかり」とあるが、どれくらいのタニシの量なのか？

④「タニシを五俵ばかり集めておきました」とあるけれど、五表はタニシに換算すると六万匹だと思うから、そんなに集めることって可能なのか？

⑤「ガンの好みそうな場所」とあるけれど、具体的にはどんなところなのか？

⑥「さかんに食べた跡」とあるけれど、どのくらい食べた跡があったのか？

⑦「思わぬごちそうが四、五日も続いたので」とあるけれど、何日も来るということは、巢から近いのか？

⑧「思わぬごちそうが四、五日も続いたので」とあるけれど、どうしてごちそうを食べている間に残雪たちを殺さなかったのか？

⑨小屋を作ったけれど、どうしてガンを捕まえるだけなのに小屋をわざわざ作るのか？

⑩沼の近くにわざわざ小屋を立てたけれど、どうして大造じいさんは見張りにしか使わなかったのか？

⑪大造じいさんは夜の間にえさ場より少し離れた所に小さな小屋を作ってその中に潜り込んだとあるけれど、どうして草の中に隠れてうたなかったのだろうか？

⑫「朝の光」と表現したらいいのに、どうして「あかつきの光」と表現しているのか？

⑬「先頭は残雪にちがいない」とあるけれど、本当に残雪だったのか？

⑭「ほおがぴりぴりする」と書かずに、どうして「ほおがびりびりする」と表現したのか？

「残雪」の行動について

①ガンは動物だから今まで無かった小屋を作っても気づかないはずなのに、どうして残雪は気づいたのか？

②ガンは目が悪いはずだけれど、なぜ小屋が見えたのか？

③「昨日までなかった小さな小屋をみとめました」とあるけれど、昨日の小さなことまで記憶しておけるのか？

④「彼の本能はそう感じたらいいのです。」とあるけれど、どのくらい残雪は本能が敏感なのだろうか？

⑤「急角度に方向を変える」とあるけれど、どれくらい急だったのか？

⑥「広い沼地」とあるが、どれくらい広い沼地だったのか？

⑦油断なく気を配っているけれど、どうして残雪はそんなに気を配る必要があったんだろうか？

⑧残雪は賢いけれど、そんなに賢くなったのはどんな出来事があったからなのか？

⑨うまくいったけれど、残雪の本能によって同じ群れの鳥たちはどのくらい助けられてきたのか？

「大造じいさん」の行動について

①残雪に完敗したのに、どうして大造じいさんの反応は、「ううむ。」と「ううん。」で変わったのだろうか？

②どうして、はじめやられたときには「ううむ。」と書いてあったのに、二回目は「ううん。」だったのか？

【第三章】

「大造じいさんの行動について」

- ① 大造じいさんがどんぶりをもって鳥小屋に行ったけれど、ガンは生きたドジョウを食べるのか？
- ② 最初はタニシがガンのえだったのに、どうしてつかまえたガンには生きたどじょうをあげていたのか？
- ③ だまされてつかまったのに、どうしておとりになったガンは大造じいさんになつたのか？
- ④ 普通はなつかないはずなのに、どうして野生のガンは、大造じいさんになつたのだろうか？
- ⑤ 残雪は大造じいさんをうらんでいるから、つかまえたガンもうらんでいるはずなのに、どうしてつかまえられたガンは、大造じいさんになつたのか？
- ⑥ 「なつた」とあるけれど、どのようにして大造じいさんは生けどつたガンを飼いならしたのか？
- ⑦ せっかくつかまえたガンなのに、どうして大造じいさんはそのガンを食べなかったのか？
- ⑧ かりゆうどなのに、どうして大造じいさんはガンを飼い始めようと思ったのか？
- ⑨ ガンをねらっているのに、どうして大造じいさんは二年前につかまえたガンを大切に育てたのか？
- ⑩ 大造じいさんは、世話をしているうちにかわいく思えてきたかもしれないのに、どうしてこのガンをおとりに使おうとしたのか？
- ⑪ 毎日ガンにえさをあげているけれど、ガンを育てるにはどれくらいのえさの量が適しているのか？
- ⑫ 「ヒューヒュー」とあるけれど、どうして口笛を吹くとガンがこちらに来るのか？
- ⑬ ガンは空を自由に飛び回ることができなのに、どうして大造じいさんの元に戻ってくるのか？
- ⑭ 大造じいさんがやってといった行動をやっていたけれど、ガンは本当に言っていることは分かっているのか？
- ⑮ ハヤブサと戦えるくらい大きいけれど、ガンは大造じいさんのかたとびのれるものなのか？
- ⑯ 「今年はひとつ、これを使ってみるかな。」とあるけれど、「みようかな」と表現しなかったのはなぜなのか？
- ⑰ 「残雪に一泡吹かせてやるぞ」とあるけれど、大造じいさんは、残雪にどのくらいうらみがあつたのか？

「おとり作戦」について

- ① 「長年」とあるけれど、大造じいさんは何年くらいかりゆうどをしていたのか？

- ② 「小屋がけた所から、たまの届かない距離」とあるけれど、何メートルぐらいだったのか？
- ③ 「東の空が真っ赤に燃えて」とあるけれど、どのくらい赤かったのか？
- ④ 「真っ赤に燃えて」とあるが、この表現は必要なのか？
- ⑤ 「東の空が真っ赤に燃えている」って、どのくらい赤くて明るかったのか？

- ⑥ 「戦闘開始」とあるが、「空が真っ赤に燃えて」という表現は、そのことをくわしく表現しようとしているのか？
- ⑦ 「グワア、グワア」とあるけれど、どのくらい「やかましい声」だったのか？

- ⑧ 「くちびるを二、三回静かにぬらした」けれど、どうして大造じいさんはくちびるをぬらしたのか？

「ハヤブサがおそってきたこと」について

- ① 何かが一直線に落ちてきたと書いているけれど、ハヤブサはどれだけ速いのか？
- ② 「一羽飛びおくれた」とあるけれど、どのくらいおとりのガンはおくれたのか？
- ③ 「実にすばやい動作」とあるけれど、どのくらいすばやい動作でガンは飛び去っていったのか？
- ④ 「一羽、飛び遅れたのがいます。」と「大造じいさんのおとりのガンです。」は、特に場面が変わったわけではないけれど、どうして改行しているのか？
- ⑤ ガンは大造じいさんの声を覚えていと言われているけれど、どれくらいの距離からその声を認識できるのか？
- ⑥ おとりのガンと大造じいさんの間はたまのどく三倍以上の距離もあるのに、どうして大造じいさんの口笛がおとりのガンに聞こえたのだろうか？
- ⑦ また新しくガンを飼えばいいのに、どうして大造じいさんはガンを無理やり呼び戻そうとしたのか？
- ⑧ 「ガンの体がなまめに傾いた」とあるけれど、その後大造じいさんのガンはどうなったのか？

「残雪」の行動について

- ① 「かげ」だけでいいと思うのに、どうして残雪を「大きなかげ」と表現したのか？
- ② 二年間も群れを離れていたのに、どうして残雪はおとりのガンを助けようとしたのか？
- ③ ガンの群れを引き連れて逃げていったはずだけれど、どうして残雪は逃げ遅れた大造じいさんのガンに気づいたのか？
- ④ 逃げようとしていたのに、どうして残雪は大造に捕まっ

ていたガンを助けようとしたのか？

⑤ 自分が助かれたいのに、どうして残雪は自分の命を危険にさらしても仲間を助けようとするのか？

「大造じいさん」の行動について

① 大造じいさんのガンがハヤブサによって危ない目にあっているのに、どうして大造じいさんはハヤブサをじゅうてうたなかったのか？

② 残雪は自分が飼いならしたガンを助けようとしたのに、どうして大造じいさんはまだ残雪を殺そうとしたの？

③ ハヤブサの時にうてばよかったのに、どうして大造じいさんは残雪を打ちたかったのにじゅうをおろしたのか？

④ 大造じいさんは、残雪をねらうてうとしていたけれど、どうしてうつのをやめたのか？

⑤ 大造じいさんはじゅうを持って、その後下ろしたとあるけれど、悪い人なのか？それともいい人なのか？

⑥ 大造じいさんはかりゅうどなのに、どうして残雪を殺さなかったのか？

⑦ 「残雪の目には」とあるけれど、どうして残雪の見えるものがわかったのか？

「ハヤブサと戦う残雪」の行動について

① 残雪とハヤブサが戦っていたとあるけれど、残雪はハヤブサに対抗できる大きさということだけどのくらい大きいのか？

② 「あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけました。」とあるが、残雪の羽はどのくらい大きいのだろうか？

③ ガンはハヤブサを思いつきになぐったと書いてあるけれど、どうしてハヤブサはよろけただけですんだのか？

④ ハヤブサの方がガンより小さいのに、どうしてハヤブサはガンのことをおそえたのか？

⑤ ハヤブサのえさは主にスズメやハトなどの体重一・ハキロ以下の鳥類を食べるみたいなのに、どうして体重二・六〇六、五キロのガンをねらったのだろうか？

⑥ 戦ったけれど、ガンとハヤブサではどちらが強いのか？

⑦ ガンはハヤブサよりも体が大きいのに、どうして残雪はハヤブサに勝てなかったのか？

⑧ ガンとはハヤブサだったらハヤブサのほうが強いけれど残雪とハヤブサは互角だったのか？

⑨ 物語に出てこなくなったけれど、どうして大造じいさんになつた鳥は一緒に戦わなかったのだろうか

⑩ 戦っているけれど、ガンとハヤブサではどれくらいの違いがあるのか？

⑪ 仲間のガンを救い出したらすぐに逃げればよかったのに、残雪はどうしてハヤブサと戦おうとしたのか？

⑫ きつと残雪はハヤブサに勝てることはないと分かっていたはずなのに、それでも戦ったのはなぜなのか？

⑬ 「救わねばならぬ仲間の姿がありました」とあるけれど、残雪はまだその顔を覚えていたのか？

⑭ いつもは人間やじゅうを警戒しているのに、どうして残雪には助けなければならぬ味方の姿しか映らなかったのか？

⑮ 残雪の敵が二人いるけれど、どうして残雪は二年ぶりに見た仲間を真っ先に助けたのか？

⑯ 「救わねばならぬ仲間」とあるけれど、残雪は群れの鳥たちをどのくらい大切に思っているのか？

⑰ 「救わねばならぬ仲間」とあるけれど、残雪と人間の気持ちとはどのくらい共通しているのか？

⑱ 口笛を吹いたら大造の近くに行くからハヤブサは逃げたはずなのに、どうして残雪は助けたのか？

⑲ 「すんだ空」とあるが、空はどのくらいすんでいたのか？

⑳ 「もつれ合ってそのまま地に落ちていった」とあるけれど、どのくらいのスピードで落ちていったのか？

「ハヤブサが去った後の残雪と大造じいさん」について

① 「二羽の鳥は、なおも地上ではげしく戦っていましたが」とあるがどれくらいはげしく戦っていたのか？

② 戦いは終わったけれど、大造じいさんが最初から飼っていたガンはどうなったのか？

③ 「ハヤブサは、人間の姿をみとめる」あるが、「みとめる」には二つの意味があるのか？

④ 「飛び去った」とあるが、どうしてハヤブサは人間の姿を見るとすぐに逃げていったのだろうか？

⑤ ハヤブサは逃げたのに、どうして残雪は人間が来ても一緒に逃げなかったのか？

⑥ 「くれないにそめて」とあるが、残雪はどんな様子だったのだろうか？

⑦ 敵はハヤブサだけなのに、どうして大造じいさんのことをわざわざ「てき」と書いている所があるのか？

⑧ にらみつけなくてもいいのに、どうして残雪は正面から大造じいさんをにらみつけたのだろうか？

⑨ 「残りの力をふりしぼって」とあるけれど、どうして弱っている姿を見せないようにしているだろうか？

⑩ 「ぐつと長い首」とあるが、どのくらい長かったのか？

⑪ ハヤブサと戦っただけで命がけだったのに、どうして残雪はまた戦おうとするのか？

⑫「頭領らしい堂々たる態度だった」とあるけれど、どのくらい残雪は堂々としていたのだろうか？

⑬助けを求めたり怖がったりしてもいいのに、どうして残雪は大造じいさんが手を伸ばしてもにらみつけたただけだったのか？

⑭「大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もうじたばたさわぎませんでした。それは、最期の時を感じてせめて頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。」とあるけれど、残雪はどのくらいの強い決意を持っていたのか？

⑮「強く心を打たれた」とあるけれど、大造じいさんはどのくらい強く心を打たれたのか？

【第四章】

「残雪と大造じいさん」について

①「残雪はむねの辺りをくれないに染めていた」のに、どうして残雪は生き残っていたのか？

②最初は残雪のことをいまいましく思っていたのに、どうして大造じいさんは最後は残雪を保護したのか？

③あんなにうらみを持っていた残雪が弱っていたのに、大造じいさんは残雪を殺さなかったのか？

④物語に出てこなくなったけれど、大造じいさんが飼っていたガンは最後まであったのか？

⑤ハヤブサと戦って怪我をして最期になってもよかったのに、どうして残雪は生き延びたのか？

⑥残雪はハヤブサとやり合ったときに死んで大造じいさんの後悔させればよかったのに、どうして物語は残雪を生かしておいたのか？

⑦「一冬を過ごした」とあるけれど、どれくらいの期間大造じいさんは残雪と一緒にいたのか？

⑧時間がたつたり情景が変わったりすると改行するのに、どうして「春になると、その傷も治り、体力も元のようになりました。」は改行していないのか？

⑨残雪も大造じいさんもお互いを敵視していたはずなのに、どうして残雪は抵抗もせず大造じいさんのおりの中で、ひと冬をこし、大造じいさんは自分のおりの中で冬を越させたのだろうか？

⑩「一冬を過ごした」とあるが、おりは頑丈だったのか？

⑪「一冬を過ごした」とあるけれど、どうして残雪の怪我は一冬こしただけで治ったのか？

⑫残雪は、毎年ガンの群れを率いてぬま地にやってくるなら、遠いところからやってくると思うのに、どうして突然に広がった世界に残雪はおどろいたのか？

⑬春にはたくさん花にも咲いているのに、どうして物語はスモモを描いたのか？

「大造じいさん」の行動について

①言葉が通じない残雪なのに、どうして大造じいさんは最後残雪に話しかけたのだろうか？

②「おい、ガンの英雄よ。」とあるが、言ったときの大造じいさんの気持ちはどのような気持ちだったのか？

③「今年の冬も仲間を連れて沼地にやってこいよ」と言っているけれど、来年も残雪や仲間たちが生きているとは限らないのにそれを言ったのはどうしてか？

④「また戦おう」と言っているけれど、次は残雪がこの辺りは危険地帯だから近づかないようにしているかもしれないのに、どうしてなのか？

⑤「堂々と戦う」とあるが、どのようにすることがひきょうで、どのようにすることが堂々と戦うことなのか？

⑥「堂々と戦う」とあるが、大造じいさんは残雪に対して敵↓助けたい↓戦いたいという気持ちに変わっていったのだろうか？

⑦戦っていた二人なのに、どうして最後は大造じいさんにとって友情が深まっているようになっていくのか？

⑧大造じいさんが、堂々と戦おうじゃないかと言っているけれど、次に対決をしたら、どちらが勝つのだろうか？

⑨戦うことで悲しい思いをするかもしれないのに、どうして大造じいさんはまた戦うことを約束したのか？

⑩「堂々と戦う」とあるが、大造じいさんにとって残雪との関係はどう変わったのか？

⑪大造じいさんは鳥に対してどれくらい大切な気持ちをもちたのか？

⑫「いつまでもいつまでも見守っていた」とあるけれど、どのくらい大造じいさんは見守っていたのか？

⑬「いつまでも見守っていた」でいいのに、どうして作者は「いつまでも、いつまでも、見守っていた」という終わり方にしたのか？

⑭「いつまでもいつまでも見守る」ことはできないのに、どうしていつまでも見守れたと終わるのか？